

## ジャワ島中部地震被災地に義援金

5月27日に発生したインドネシア・ジャワ島中部地震の被災地救援のための義援金が志中生徒会と志高音楽部から寄せられました。

この義援金は、日本赤十字社県支部を通じて被災地へ届けられました。



志津川中学校生徒会は、7月10日(月)、生徒会長の大森庄洋さん(3年)、副会長の遠藤拓朗さん(2年)、代議委員長の高橋夏希さん(2年)が代表して役場を訪れ、ジャワ島の被災地の救援に役立てて欲しいと、28,053円の義援金が届けられました。

募金活動は、生徒会役員が中心となって6月中旬から登校時や休み時間に行い、生徒や教職員に善意を呼びかけました。

大森会長は、「みんな快く募金してくれました。家を無くした子どもたちのために役立てて欲しい。」と話していました。



志津川高等学校音楽部10人が、7月14日(金)に役場を訪れ、ジャワ島の被災地の救援に役立てて欲しいと義援金10,451円が届けられました。

この義援金は、7月2日(日)志津川公民館で開催した志高音楽部の定期演奏会で協力を呼びかけた募金に、部員の皆さんの善意を加えたものです。

部長の小山美穂さん(3年)は、「演奏会に来て募金した方々に感謝します。被災地で傷を負った人たちに役立てて欲しい。」と話していました。

## 中学生と町長が、将来について語り合う

7月6日(木)、町長が志津川中学校に出向き、3年生101人の生徒と町の夢と未来を語る「町長の出前トーク」が開催されました。

始めに、町長から津波防災対策やゴミ処理問題など町の課題と展望を説明後、「目標を持って努力を惜しまないこと。結果よりそこに至る過程が大切です。誤りがあっても言い訳や責任転嫁をせずに謝る勇気を持ち、何事にも一生懸命取り組んで欲しい。」と生徒への期待を伝えました。

生徒らが、職場不足とニートへの不安、温暖化と自然保護、防犯・防災対策などの質問や提案を問かけると、町長は1つひとつ分かりやすく真剣に答えていました。



## 海のない町の中学生が定置網おこし体験

6月30日(金)栃木県那須町<sup>たかく</sup>高久中学校1年生の24人が、歌津伊里前湾内で定置網の網おこし作業を体験しました。

この体験学習は、高久中学校が生徒たちの職業意識を高めようと取り組んでいる「キャリア教育」の一環として、今年2月に歌津泊浜地区において実施されたわかめ養殖体験に引き続き、行われたものです。

生徒たちは、早朝の伊里前漁港から乗船し、定置漁場で網おこし作業を行いました。大量の魚が水揚げされると、生徒たちは目を輝かせながら大歓声をあげて、収穫の喜びを味わっていました。

